

總十九人、改宿禰賜朝臣、國牽^{クニヅル}天皇三世孫武內宿禰第六男、葛木襲津彥之後、

〔日本書紀^四〕七年二月丁卯、立鬱色謎命爲皇后、后生二男一女、^略中 第二曰稚日本根子彥大日、
天皇、^{○開}化

〔古事記傳^{二十二}〕大御父天皇^{元孝}の御名の、大倭根子に對へて、若倭根子とは稱へ奉れるなり、

〔日本書紀^五〕十二年九月己丑、始校人民更科調役、此謂男之弭調、女之手末調也、是以天神地祇共

和享、而風雨順時、百穀用成、家給人足、天下太平矣、故稱謂御肇國天皇也、

〔古事記^中〕爾天下太平、人民富榮、於是初令貢男弓端之調、女手末之調、故稱其御世、謂所知初國之

御真木天皇也、

〔古事記傳^{二十三}〕所知初國は、波都久邇斯羅志斯^{ハヅクニシラシ}と訓り、此稱辭は、後の御世に至て申せし言な

るべし、其御世と云、又大御名をも申せるなど、當御世に申せる物とは聞えざればなり、^{○中}さ

て此は師真淵^{加茂}の神武天皇を如此稱申して、^{○事見}更に又此にも如此申せる故は、是より先

にはいまだ服はざりし遙の國々まで、初て皇化のゆきたらはして、天下悉く大平ぬる御世な

ればなりといはれしが如し、

〔日本書紀^{十四}〕元年三月壬子、^略中 是月立三妃、元妃葛城圓大臣女曰韓媛、生白髮武廣國押稚日本

根子天皇、^{○清}與稚足姬皇女、

〔日本書紀^{十五}〕白髮武廣國押稚日本根子天皇、大泊瀨幼武天皇^{○雄}第三子也、^略中 天皇生而白髮

〔古事記^下〕雄略天皇、^{○中}娶都夫良意富美之女韓比賣、生御子白髮命、^{○清}天皇生而白髮

〔古事記^下〕雄略天皇、^{○中}娶都夫良意富美之女韓比賣、生御子白髮命、^{○清}天皇生而白髮

〔日本書紀^{十七}〕元年三月癸酉、納八妃、元妃尾張連草香女曰日子媛、生二子、皆有天下、其一曰勾大兄

皇子、是爲廣國排武金日尊、^{○安}七年十二月戊子、詔曰、^{○中}懿哉摩呂古示、朕心於八方、盛哉勾大